

ROAD

発行 〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1

上智大学教育学事務室内

上智大学教育学科同窓会

TEL (03) 3238-3650 FAX (03) 3238-3980

編集責任者: 教育学科同窓会会長 佐々木正文

上智大学教育学科同窓会会報

十月二十四日、二十一年度総会・講演会を開催

新井裕子さん(昭和52年卒)を講師にお招きして

教育学科同窓会の二十一年度講演会・総会・懇親会をご案内いたします。

会は十月二十四日(土)に、四谷キャンパスの一番奥に位置します十一号館で開催されます。母校を訪ねるチャンスがなかなか得られなかったという方は、今年こそ足をお伸ばしてください。また、今年金祝、銀祝、銅祝であった方々もぜひどうぞ。

講演会は午後一時半から始まります。講師には新井裕子さん(昭和52年卒)をお願いしました。ご自身のことはもちろん、一昨年亡くなられたパートナー新井茂光さんへの思いをお話いただけるものと思います。



講師の新井裕子さん

新井 裕子さん

新潟市出身。一九五三年生まれ。一九七三年に上智大学文学部教育学科に入学。卒業後にイギリスのエクセター大学に入学し一年間のコースに在籍。帰国後、上智大学で知り合った新井茂光氏と結婚し、栃木県宇都宮市で教師となる。野沢特別支援学校で二年間の勤務の後、宇都宮北高等学校で十年、鹿沼高等学校で十一年、石橋高等学校で六年間の英語教師としての勤務を経て、今年三月三十一日に退職。平成十九年八月九日にすい臓がんのために逝去した夫の後を継ぎ、(有)アライの代表取締役役として、デイセンターさくら、デイホームさくらの家の統括責任者となる。

新井 茂光さん

宇都宮市出身。一九五四年生まれ。一九七三年に上智大学文学部教育学科に入学。卒業後、

海外での二年間の滞在を経て、郷里で中学校講師を二年、専門学校講師を十三年務める。その間に東洋大学大学院社会学研究科修士課程福祉社会システム専攻に入学し二年後に卒業。その後、特別養護老人ホーム豊幸の郷石井を立ち上げソーシャルワーカーとして二年間勤務。

平成十二年に介護保険制度スタートとともに宇都宮市で第一号となる認知症対応型通所介護施設「デイセンターさくら」を立ち上げる。センター長として勤務する傍ら、玉川大学非常勤講師、共栄学園短期大学非常勤講師、栃木県立県南高等看護学院非常勤講師、大阪大学非常勤講師等を務める。

二〇〇六年九月に体調不良を訴え検査をした結果、即日入院、手術が決定。手術の結果すい臓がんの末期と診断され、在宅での闘病生活に入るが、翌二〇〇七年八月九日に逝去。

新井さんからのメッセージ

新井茂光という人の生き方と人生の終え方について、妻という立場からお話したいと思います。特に、闘病生活に入ってから、在宅医療や訪問看護、また自宅で見取るということ等、私自身が考えさせられることが多くありました。彼が立ち上げた通所介護施設と共通する部分も多くあり、そのへんも含めてお話できればと思います。

新井さんの講演会とその後総会は、十一号館の405教室で行ないます。午後三時半からの懇親会は、会場を同じく十一号館の七階第3会議室に移します。終了予定時刻は午後五時半です。

懇親会費は三千円です。当日受付でお支払い下さい。現役学生は参加費無料です。会場準備の都合上、出席される方は同封の「A」用紙をご利用いただくか、メールでご連絡ください。

—平成20年度講演会—

「子どもをめぐる問題」を考える

ベネッセ教育研究開発センター教育調査室長

木村治生さん（平成3年卒）

昨年十一月八日、大学の十一号館を会場に、平成二十年度の講演会・総会・懇親会が開催されました。ここでは、木村治生さんによる講演会要旨を掲載いたします。



データをもとに丁寧に語る木村さん

現在、(株)ベネッセコーポレーション・ベネッセ教育研究開発センターで調査研究の仕事をしています。CSR(企業の社会的責任)の一環として、学校・家庭の教育力を高めるための様々な情報を発信する仕事です。ふだん先生や保護者を対象に話をすることも多いのですが、今日はどのような方が集まるのかわからなかったので、何を話そうか少し戸惑っています。でも、このように同窓会でお話をさせていただく機会がもてたことをとてもうれしく思います。

さて、現在は教育をめぐる否定的な言説が多く聞かれる時代です。国際的な学力調査に見られる日本の子どもの学力低下、ゆとり教育批判、公立校への不安、教師の不祥事、児童虐待と

いった問題がたくさん報道されています。しかし、あまり表に現れませんが、子どもたちも保護者も教員も、それぞれの立場でがんばっています。たとえば四十年ぶりに実施した教員の勤務状態の調査からは、帰宅後も自宅で仕事をする教員の姿が見え、保護者の調査からは家庭の教育力低下への危機感が伝わります。一九九〇年から実施している子どもたちの学習調査では、近年、学習の時間が増加していることが読み取れます。また、「テストは自分の成績がわかるのであったほうがよい」「子どもは勉強しなくてはならない」といった価値観をもっている子が増えていることもわかっています。

にもかかわらず、教育が否定的に捉えられているのはなぜでしょうか。その背景の一つに、子どもも保護者も非常に多様になったことが挙げられます。たとえば、先ほど述べた学習時間の増加は、成績上位者が数字を引き上げています。家庭教育に目を向けると、幼児の生活が規則正しくなり、テレビ視聴が減ったという調査結果があります。しかし、こうした変化を起こし

たのは、教育熱心な保護者が中心です。このように、地域や家庭による差を考慮しなければならなくなりました。教育を「平均値」で語ることができたこれまでと異なり、平均像を語りにくくなりました。多様化が進むなかで、悪いところ、できていないところが目につきやすくなっている状況があります。

また、子どもの外遊びの減少や地域の教育力の低下によって、保護者のかかわりの重要性が相対的に高まっています。保護者の願いと選択が子どもの進路に大きな影響を与える社会を「ペアレントクラシー」と呼ぶのですが、今の日本はその傾向を強めているようです。このような社会では、家庭による差が問題として現れやすくなるといえます。

では、これから何が必要になってくるのでしょうか。個人にとっては、どのような選択をすべきか考えることが重要であり、社会にとっては、その選択の行き過ぎによる弊害を是正することが重要になると考えます。そして、もっと子どもの周囲の人、つまり保護者以外の人のかわかりを浮上させるような手立てが

必要になってくるのではないのでしょうか。

日本の教育予算が少ないことも大きな問題であると考えます。このままでは子どもたちが「日本の相続を放棄する!」とさえ思えてしまいません。国家による多額の借金、少子高齢化に伴う国家財政の収入減といった状況の中で、自分に対する投資である教育予算の少なさに絶望してしまわないでしょうか。教育は未来にどれくらいの資源配分をするかを、家庭も社会も考えていかなければなりません。社会全体を考えると自衛のバランスが大切になります。「一人勝ち」では意味がない。これからの日本社会は共存共栄をめざしていくことが求められるのだと思います。



木村さんと恩師の武内清先生

『集う門には福来る』

五十九年度卒銀祝 「」報告!

毎年五月の最終日曜日は、オールソフィアンの集いが開催されます。今年金祝を迎えられたのは昭和三十四年卒、銀祝は五十九年卒、そして銅祝は平成六年卒の皆さんでした。おめでとーございました。ここでは、銀祝に集った八〇・一四クラスの準備委員の中村洋一さん、幹事の仁村一利さん、畠祐美子さんのレポートをお送りします。

「えーっ、中村君?シンジラレナイー!!」敵かな式典から、ちよつと緊張気味で祝賀会場に向かった私への、銀祝開演第一声はこんな御祝詞を頂戴するところからスタートしました。しばらく会わないうちにみんな大きくなって、幸せそうで、平和な人生を歩んできたんだと笑顔笑顔が溢れ、パーティーは盛り上がり、上がない訳がありません。二十五年前のまんまのパワフルさに戻るのに、「わあー!久しぶり!」の一瞬のひと言で十分、まさに会場は「ヘーンシン(変身)!!」の嵐、笑い声の渦でした。

お開きの前の、各学科別の壇上記念撮影に至っては、「ミス&ミスター銀祝・あれから二十五年オーディション」と化し、



高祖理事長をお囲みして

式典からパーティーまで、本当にありがとうございました。学長・理事長をはじめ大学関係者の方、そして裏方を務めて頂

いた方々に厚く御礼を申し上げます。そして、集まってくれたみんな、来られなかったみんなの人生が、これからもずーっと愛とロマンに満ち溢れますように!

また金祝でお会いしましょうね。(中村)

* 二次会は、しんみち通りの「日比谷gg」にて。銀祝パーティーの女子参加者を逃がさぬよう四時半開始という設定で、大学からお預かりした名簿をお借りしてDM&メール大作戦で呼びかけたところ——人が人を呼び「なんで私が行方不明者に?」という皆さんから続々参加のお知らせが。遅れて駆け付ける人も含め総勢二十三名の参加を得ました。これには幹事もビックリ。中には翌日休みを取って参戦したツワモノどももいたとかいなかったとか。頭が下がりました。

さて、二十五年という時を超え集まった面々。これがまあ変わっていないこと!一人入店するたびに歓声が上がリ、乾杯の号令を届かせるのに「いーから静かにしてーッ!」と絶叫する有様。瞬時にあの何の授業も一

緒だった一・二年生の頃にタイムスリップしたもはや二十歳の私たちは、心地よい興奮状態のまま記憶の扉を開き、弾む声でこれまで過ごしてきた再会までの日々を語りまくりました。

そして開始一時間ほどして、お待ちかね、高祖先生の御登場。先生はお忙しいスケジュールの中一時間以上も同席して下さり、三回も席を移動して一人一人の近況を聞いて下さいました。我が八〇・一四は先生が初めて担任をなさったクラスということもあり、まるで兄貴のような距離感でのお話に、私達は心底、あー、ソフィアンでよかったと、温かいおくるみに包まれた赤ん坊のような穏やかな心持ちで、さらに盃を、そして笑顔を交わしました。

当然の如く三次会「軍鶏」へと雪崩れ込み、飲み放題・喋り放題、時を忘れ翌日が月曜であることも忘れた私達の宴は、「解散はそれぞれ終電」という盛況ぶりとなりました。一人も欠けず健在だったことを互いに喜び合い、金祝を待たずに再会することを約束して——それぞれ交換した夢の名残のガラスの靴、ならぬ名刺やアドレスを手



2次会に集合した面々

に、二十歳のシンデレラボーイズ&ガールズは、帰宅途中で十二時を迎え元の生活に戻って行きました。(仁村・島)

* 銀祝——二十五年の節目は、五十路を前にした私達が、大学との絆、敬愛する先生方との絆、そして我々相互の絆を再確認するにベストなタイミングのイベントであったと、振り返り実感しています。大学にはこんなに素敵な再会のチャンスを下さったことを感謝してやみません。この仲間が、いつまでも健康で互いに支えあえますよう、そして我が上智大学が末永く躍進し続けますように——みんな同じ思いでいることと信じています。(中村・島)

総会・懇親会報告

昨年十一月八日の講演会終了後、総会が催されました。会長の十九年度活動報告の後、会計監査の高橋氏から会計・監査報告がなされ、出席した会員からの承認を得ました。続いて会長より会則変更の議事が提出されました。傍線部が提案された変更箇所になります。

○第四条 本会は、本部を上智大学教育学科事務室に置く。

○第五条 (文言から「文学部」を削除する。)

○第六条 本会は次の役員を置くことができる。

- 1 会長 1名
 - 2 副会長 2名
 - 3 会計 1名
 - 4 書記 1名
 - 5 会計監査 2名
- 第八条 役員の任期は3年とする。但し再任は妨げない。
変更が承認された後、新役員の提案がなされ、これも承認されました。新役員は次の通りです。()内は卒業年。
- 1 会長 佐々木 (昭和55)
 - 2 副会長 栗原 (昭和57)
長尾 (昭和61)
 - 3 会計 伊藤 (昭和52)

- 4 書記 手島 (昭和53)
- 5 会計監査 神林 (昭和58)
高橋 (平成14)

その後十一月九日第三会議室に会場を移し、渡辺先生、武内先生、学部生の二名を交えた三十八名で、懇親会が行われました。会半ばからはテーブルの周りに椅子を移動し懇談するグループがあちこちに現われ、いつになく話に花の咲く和やかな雰囲気。懇親会となりました。何人かの同窓生に近況報告をしていた。最後は記念写真を撮ってお開きとなりました。

学位授与式にて

本年三月二十五日の学位授与式に、同窓会役員がお邪魔して佐々木会長からの祝辞と記念品を贈らせていただきました。当日は例年通りにとても温かな教育学科らしいものでした。伊藤会計からの説明にも熱心に耳を傾けてくださいました。卒業生の皆さんには、同窓会へのご理解とご協力をお願いいたします。新しい世代の方々が関わってくれることを、ベテラン世代は強く願っております。

上智大学教育学科同窓会 会計報告 (案)

(2008年6月1日から2009年5月31日まで)

項目	収入	支出
1 前年度より繰越金	3,037,670	
2 終身会費	160,000	
3 同窓会参加費	99,000	
4 利息	3,432	
収入合計 (1)	3,300,102	
1 発送料		140,860
2 ROAD印刷代		96,075
3 会場使用料		26,940
4 同窓会飲食費		89,500
5 講師へのお礼		6,050
6 会場お花代		3,150
7 写真代		10,644
8 慶弔費 (卒業祝)		24,770
9 文具代 (名入封筒含む)		106,879
10 振込手数料		420
11 会議費		3,560
12 ネット使用料		47,200
13 カード年会費		1,312
支出合計 (2)		557,360

収入合計 (1) - 支出合計 (2) = 残金 2,742,742 円

上記の通り、会計報告いたします。尚、残金 2,742,742 円は2009年6月以降の同窓会費に引き継ぎます。

2009年8月2日

上智大学教育学科同窓会

会計担当 伊藤 奈美予

監査の結果、上記の通り相違ないことを認めます。

2009年8月2日

会計監査 神林 達郎

高橋 秀和

教育学科同窓会ホームページ

<http://www.sophia-education-alumni.jp>

香川先生のご退職

香川正弘先生が本年三月で退職されました。先生は平成二年四月に、本学科に生涯教育学のコースを設置するため佐賀大学より着任されました。以後十年間、多くの同窓生たちがお世話になりました。

一月二十日には先生が研究されてきた「イギリス大学拡張運動」をテーマに最終講義が行なわれました。

先生に感謝申し上げますとともに、今後の益々のご活躍をお祈り申し上げます。

渡辺先生、学科長に

学科長に渡辺文夫先生 (異文化教育学) が就任されています。先生からのメッセージです。「教育学科は上智大学の使命を果たすべく、より国際的な教員をそろえ、国際的な学科になります」

計報

三間百子さん (昭和53年卒)
旧姓森山さん。昨年十月に亡くなられました。同窓会にもご協力をいただきありがとうございました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

会計担当より

終身会費の納入にご協力ください。未納の方は一万円を左記口座までお願いします。

郵便振替

〇〇一九〇一六一七〇三一一

三井住友銀行四谷駅前支店

普通 六七五五二〇七

「上智大学教育学科同窓会」宛

編集後記

第十五号では、銀祝レポートに圧倒されました。オリキヤン担当ヘルパー長としては、感慨深いものがあります。十月二十四日にお会いしましょう。(栗)